

2006 ワークショップ開催報告

実行委員：田村 充章（住友電工）

恒例のワークショップが、ラフォーレ修善寺（静岡県田方郡）にて9月7日（木）、9日（金）にて開催されました。本ワークショップは、エレクトロニクス実装学会の重要行事の一つであり、実装材料・パッケージ・設計解析・光実装・デジタル機器など、実装分野全般にわたる発表をポスター形式で行ないます。1泊2日の宿泊を通して参加者全員が技術的かつ人的な交流を深め、「実装技術に関わる参加者全てが、人間的なふれあいを通して本音で議論し合い、双方向のディスカッションを通じて現状の課題を浮き彫りにすると共に、その克服に向けての斬新なアイデアやヒントを得る」ことを目的に、これまで毎年9月の第1木・金曜日に開催されてきました。そのため、遠隔地ではありますが静かで環境の良いラフォーレ修善寺を開催地として選び、宿泊を基本としてノースーツ／ノーネクタイ／撮影禁止をルールとして運営しています。

さて、今回のメインテーマは「グローバル競争を勝ち抜く先端実装技術」、サブテーマは「製品競争力とコスト力を生み出す実装技術」と定め、日本のエレクトロニクス産業がグローバルで熾烈な競争に勝ち抜くためのキーテクノロジーとなる革新技術の発表が32件ありました。また、特別講演として2件をプログラムしました。Grand Joint Technologyの大西さんからは、グローバルな視点で見たときの日本のエレクトロニクス産業における実装技術の重要性を解説頂くと共に、本ワークショップが実装技術の発展に果たしてきた役割をレビュー頂きました。NTT DoCoMoの藤澤さんからは、今後ますます高機能化する携帯電話サービスのロードマップを解説頂くと共に、端末機の小型／高機能／低コストを実現するために期待される実装技術について講演を行なっていただきました。更に、今年初の試みとしてナイトセッションをプログラムし、UBS証券の後藤さんより証券マンの視点より電機業界の成長の波と実装技術の関係及び重要性について講演を行なっていただきました。

初日の朝は10時30分からの登録開始でした。関西方面からの参加者は朝早くの電車を乗り継いで来られたためか、少々眠い表情の方々も見受けられましたがオリエンテーションが始まると皆さん真剣な表情に切り替わりました。今回のワークショップの主査である上田さん（松下電器）の司会の下、常任理事の西さん（コニカミノルタIJ）の開会挨拶に続き、主査からの今回のワークショップの説明、スケジュール及びルールの確認がありました。続いて第1セッションへと移ります。最初のアブストラクトトークでは、発表者が3分間の時間の中で発表要旨や技術ポイント、ディスカッションしたい点などをPRされました。短い時間ではありましたが皆さんポイントを的確にまとめられており、ポスター発表へ期待が膨らむ内容でした。また、発表資料を事前に事務局に提出頂いたため、プロジェクターとパワーポイントを駆使することで非常にスムーズにアブストラクトトークを

進行することが出来ました。



昼食をはさんで午後1時からポスターセッションが開始されました。この日は、先端パッケージ3件、実装材料3件、回路基板3件、接合2件、その他5件の計16件の発表がありました。どのポスターにも人だかりができ、サンプルを手に活発に議論を交わし、熱心にメモを取る様子が見受けられました。発表者の方も他の発表を十分に見られるように45分のクローズドタイム

ムを設けましたが、クローズドタイムが重なった発表は議論できないという意見もあり今後の検討課題としたいと思います。

ポスターセッション終了後の午後4時から、Grand Joint Technologyの大西さんをお招きしての特別講演（1）が行なわれました。講演は「真に競争力を生み出す実装技術を今再度立ち止まって考える」というテーマでお話し頂きました。プロセスコンサルタントとして中国を始め世界で御活躍されている御経験を基に、日本のエレクトロニクス産業がグローバル競争を勝ち抜くための先端実装技術とは何かをご紹介頂きました。また、本ワークショップの歴史を振り返り、実装技術動向の変遷にも触れて頂き将来へのビジョンを語って頂きました。

特別講演（1）の終了後は部屋割りが発表され、夕食の懇親会までは自由時間となりました。各部屋では自己紹介が始まったり、勝手をよく知ったりピータ参加者の先導でいの一歩に温泉に向かうなど、それぞれ一息つかれたことと思います。懇親会は午後6時30分から立食形式で行なわれ、20時に一旦お開きとなりました。



20時以降の第2セッションは、各部屋に討論資料を持ち込んでのフリーディスカッションです。グラスを傾けながら互いの技術課題を話し合ったり、実装技術の将来像を語り合ったり、はたまたお互いのプライベートな話に脱線したりとどの部屋も夜更けまで大いに盛り上がり親睦を深めたようです。

一方21時30分からは、初の試みとしてUSB証券の後藤さんをお招きしてナイトセッションが開催されました。技術者とは違った視点で見た実装技術のお話が聞けるとい

とで参加者の注目度も高く、第2セッションを一時中断して100名を超える大人数の方が会場に詰め掛け、事務局で用意していた椅子では足りずに立ち見が出るほどの盛況振りでした。テクノロジーの変遷と電機業界の株価の相関から、06~07年からはユビキタス・モバイルの波が訪れ電機業界史上4回目の歴史的転換点を迎え構造的な成長局面を迎える、という予測が示され、参加者との活発な議論が繰り広げられました。

2日目は皆さん温泉で眠気を覚まし、朝食で活力を取り戻され、定刻の9時30分から第3セッション・アブストラクトトークが開始されました。前夜の交流が進んでいたこともあり、ポスターセッションでは前日に増して一層活発な議論が繰り広げられました。この日は、先端パッケージ3件、実装材料2件、回路基板3件、接合1件、その他7件の計16件の発表がありました。

昼食を挟んでのポスターセッション終了後、午後2時15分から、NTT Docomoの藤澤さんをお招きしての特別講演(2)が行なわれました。講演は「携帯電話の今後の展望と実装技術への期待」というテーマでお話し頂きました。はじめに携帯電話市場動向をお話頂き、より高機能化・小型化・低コスト化していく携帯電話端末が必要とする実装技術を分かり易くご紹介



頂きました。今後の携帯電話端末を低コスト・短期間で開発するには従来の各企業が全てを行なう垂直統合型から、各企業が得意な分野を終結した企業集団を形成することが必要という提言がありました。高機能化する携帯電話端末を支える実装技術の重要性を参加者全員が改めて認識すると共に、高い関心を持って拝聴させて頂きました。

本ワークショップ終了後のアンケートでは、通常の学会発表と違ってポスター発表者と深く議論することが出来非常に良いというご意見を多数頂きました。一方、異分野・異業種との交流という観点では、アブストラクトトークの時間を現状の3分より延ばしてもう少し詳しく説明して欲しいとの要望も頂きました。また、今年初の試みであるナイトセッションに対し、異業種の方の話が非常に新鮮だった、技術的な内容以外の討論ができて非常に良かった、来年以降も続けてほしいといったご意見を多数頂きました。来年以降の運営に反映させて行きたいと思えます。

最後に、ご発表頂いた方々、ご参加頂いた方々、事務局の方々に感謝を申し上げ、本会の報告と致します。